

◎ 大学関係

1. 総長選挙

10月2日(金) 総長予定者として藤井輝夫理事・副学長のお名前が発表されました

2. 駒場祭は11月に!

第71回駒場祭は、11月21日(土)から11月23日(月・祝日)にオンラインで開催されます。

3. 第19回ホームカミングデイ ~ オンライン開催

初めてのオンライン開催には、51の企画が部局、運動部・サークル、同窓会等から参加して盛会だったようです。

(1) 連合会企画「東京大学全学同窓会物語2020」は参加せず。

・連合会企画は、神奈川銀杏会の落語企画を参考に落語家参遊亭遊助さん(本名豆生田信一・81経、)の協力を得て、東大の全学同窓会の歴史と現状につき、ユーモアを交え分かりやすく話して頂き、後半は各会からの写真のスライドショーの合計40分ほど動画を制作しました。然し、大学担当部門より、落語の内容に不適切な部分あり(在学中の麻雀等の話など)との理由で大学主催HCDへの参加却下の連絡あり、短縮・リメイク等の対策を進めたが時間切れとなり、HCD参加は取止めました。短縮版は前日の全国大会で公開、連合会HPにて自主公開いたします。

・神奈川銀杏会のHCD企画は、同じく遊助さんの落語「横浜道物語と神奈川銀杏会物語」であったが、内容や東大ロゴ等の知的財産権等の処理など神奈川銀杏会担当幹事がギリギリまで努力した結果、参加を承認された(詳細は神奈川銀杏会活動紹介7頁を参照ください)。

・鎌倉淡青会企画は街道を歩く会などの活動紹介。

(2) 第19回特別フォーラム『新型コロナウイルスと人類 ~想定外にいかに向き合うか』は大好評!

○ 日時:2020年10月17日(土) 10:40~12:30

○ 藤垣 裕子氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)をコーディネーターとして、コロナ禍中の学生生活のビデオを混じえて行われた河岡 義裕氏(東京大学医科学研究所感染症国際研究センター長)、小野塚 知二氏(東京大学経済学研究科教授、東京大学アジア研究図書館長)、玄田 有史氏(東京大学社会科学研究所教授)の鼎談は大好評であった。他の企画と同様に次週の10月25日(日)までオンデマンド発信されたが、それ以降は視聴不可となった(事務局注:知の発信を大切にす東大として大変もったいなく、大学の広報資産として部門を超えた活用が望まれる)。

4. 東京六大学野球秋季戦

東京六大学秋季リーグ戦は続いているが、東大は10戦9敗1分であった。貴重な引き分けは立大戦の1-1。惜しい負けは、初戦の法大戦の2-4、3戦目の慶大戦の0-3、最終の明大戦の1-4。

◎ 連合会関係

1. 母校支援

大学要請による下記の基金に地域同窓会よりご寄付頂いております(2020・10・21現在)。大学よりの情報入手が遅れて申し訳ございませんが、ご協力に心からお礼を申し上げます。引き続きご支援をお願いいたします。

(1) 新型コロナウイルス感染症緊急対策基金

(団体) 関西東大会 500千円 鎌倉淡青会 114千円 岡山東大会 5万円

(個人) 長崎 20千円(1名) 鎌倉 10千円(1名)

* 基金要領

【募集期間】 2020年4月20日~2020年12月31日

【基金の用途】 集まった寄付金は、新型コロナウイルス感染症の医療対策(治療薬・ワクチンの開発、検査キットの開発、医療体制の充実等)の中で、即時性を追求し、新型コロナウイルス感染症緊急対策基金運営委員会の提案のもと総長が決定し活用いたします。

【所得控除のみ適用】

* 寄付金申込など詳しくは、東京大学HP参照 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/COVID-19-message-3.html>

(2) 『緊急学生支援パッケージ』

(団体) 長崎銀杏会 100千円 関西東大会 500千円 東京銀杏会 300千円

(個人) 福岡 60千円(2名)

* 支援募金要領

【募集期間】 期限無し

【基金の用途】 修学支援事業基金は、経済的な理由で修学に困難がある学生等に対して行われる以下事業

へ支援することを目的として、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるよう活用されます。

- ・ 入学料、授業料または寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- ・ 学資金を貸与し、又は給付する事業・ 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
- ・ ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタントの業務に対する手当等を負担する事業
- ・ 修学支援事業基金の詳細及びご寄付申込書ダウンロード：<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt83>

【所得控除に加え税額控除も選択可能：確定申告上必要証憑は基金事務局より希望を問わず自動的に郵送】

2. 第11回連合会全国大会開催報告：

日時・会場 2020年10月16日(金) 18:00～20:30 学士会館203号室(少人数のため部屋を変更)

形式 リアル(16名)・ZOOM(17名)併用のハイブリット

「式次第」

18:00～18:30 食事、20分の創作落語「東京大学全学同窓会物語2020」上映。(18:00～ZOOM参加開始)

18:30～18:50 「校友会との大同団結」岡崎一夫代表幹事 (配布資料：答申書)

18:50～19:00 有馬会長挨拶

19:00～19:05 津田副学長挨拶(ZOOM)

19:05～19:15 記念写真撮影(会場ステージ左・3列・右はZOOM画面)



(以下敬称略)

最後列：吉村(東海)、河野(関西)、土田(東京)、元森(連合会)、豊吉(神奈川)、吉田(埼玉)

中列：佐々木(千葉)、岩淵(埼玉)、露無(埼玉)、豆生田(参遊亭遊助)、金井(連合会)

前列：長壽(連合会)、三木(千葉)、有馬(連合会)、岡崎(連合会)。

(19:15～20:30 リアル・ZOOM懇親会)

←埼玉銀杏会吉田幹事(関東図書)に技術支援を要請。音声で色々問題が生じた。次回には改善。

19:15～19:40 リアル参加の会の一言挨拶(5) 東京、神奈川、埼玉、関西、東海、千葉

19:40～20:20 ZOOM参加の会の一言挨拶(10) 鹿児島、岡山、香川、兵庫、関西・東海・福井、神奈川、鎌倉、東京、北海道、さつき会他

20:20～20:25 「ただひとつ」1番のみ斉唱(コロナ感染防止のためZOOM参加者のみ)

20:30 中締 関西東大会 河野代表幹事(最も遠路ご参加)

【発言要旨】

《岡崎代表幹事》

・50年前の東大紛争時の同窓会の活躍を含め、これまでの同窓会、校友会歴史の振りかえり、校友会・同窓会連合会大同団結プロジェクト答申書作成経緯概要と答申書説骨子を説明。

・親睦交流、母校支援、社規貢献、自己啓発が活動の4本柱。親睦交流、母校支援は私学が力を入れている分野。社会貢献、自己啓発が東大らしい活動。特に自己啓発には縦の繋がりが重要。

・地域同窓会は30年やってきたが認知度が5%とまだまだ低い。

・答申書は重要であり、学内また全国に広く行脚して説明、理解を深めたい。ご協力をお願いする。ビジョンを良くご理解頂き、気持ちの若い方人材(65～75歳)の推薦をこの場でもお願いしたい。

・東大らしい全学同窓会に向けて進みたい。

《有馬連合会会長》

- ・答申書がやっとまとまった。ご苦労様。統合に向けてこれから難しい問題があるだろう。
- ・藤井次期総長ありがたい。これを機会に東大との関係を深めて欲しい。母校を助けられる強い同窓会で有って欲しい。
- ・日本の将来をどうするか。18歳の人口は、1990年200万人、2000年180万人、2020年120万人、東大は学生数を3500人から3000人に減らしたが、私学は減らしていない。
- ・東大は論文の数、大学ランキングなどあらゆる面で劣化している。アジアでも1番⇒5番に低下。
- ・解決のためには若手の質を1.5倍にする必要がある。国の教育投資はGDP比で0.6%と先進国でワースト。科学オリンピックで見るように、若者(高校生)の力はある。これを大学生の力に！創造的(Creativity, imagination)でなければいけない。
- ・同窓会を強くして、大学を助ける方向に。少なくともアジアで1番の東大に！

《津田副学長》ZOOMにて

・大学を代表してお祝いする。10月1日に大同団結への大きな扉が開いたが、理想の同窓会の向かっての最初の、本当に最初の一步で、前途多難、やるべきこと多いと思う。同窓会の知恵と力を結集してよろしくお願ひしたい。

《森田東京銀杏会会長》

・世界ランキングも問題は大学だけでなく、少子化・人口減少・生産年齢の減少で日本全体が地盤沈下している。この問題の解決には大学の力が必要。社会連携・産学連携を担当される藤井次期総長に期待するが、同窓会も協力する。

＊ ＊ その他のリアル・ZOOM参加者のご発言は事務局にて整理の上、追ってご報告します。

3. 10月30日有馬会長・五神総長ミーティング

・日時・会場：2020年10月30日(金) 13:30～14:30

大学本部棟12階大会議室(写真:左より藤井理事・五神総長・有馬会長、ソーシャルディスタンス確保・各自マイク)

・参加者：連合会(有馬連合会会長・岡崎代表幹事・森田東京銀杏会会長・長寄連合会事務局長)、大学(五神総長・藤井理事副学長・津田副学長・島田卒業生部門長・神澤校友会事務局長)

・経緯：恒例の昼食会(毎年5・6月頃開催)が新型コロナ感染拡大にて延期され、食事無しのミーティングの形でやっと実現した。同窓会によって現総長のみならず次期総長と直に会う貴重な機会ともなった。

・本会は恒例の昼食会同様にテーマ無しであったが、連合会としては久々の総長との面談であり、前半は、有馬会長(大学の競争力の問題と解決案)・岡崎代表幹事(答申書を配布、要点を説明)・森田会長(日本の少子化・地盤沈下の問題)が先日の全国大会での発言に沿って大学の協力を要請した。

・後半は、五神総長が主役で、5年半の間、運営交付金漸減の中で行って来た東大改革、特に、支援される側から自らが経済を動かすプレイヤーとして東大が社会を動かす、そして東大を投資の対象にした大学債の話などされた。また、同窓会連携が重要で、時間ができる来年4月以降は地域同窓会訪問を実現したいとの発言があった。藤井次期総長は、岡崎さんから卒業生担当役員が毎年代わると苦情を言われ3年勤めたが、更に6年もお付き合いすることは想定外、現総長と進めて来た長期ビジョン実現のためにはリソースが必要で、その一つである卒業生とのネットワークを大切にしたい等と発言された。



4. 新型コロナウイルスとの闘い

新型コロナウイルスとの闘いは活動しながら続ける長期戦です。同窓会の基本活動は対面の集まり・交流・親睦と正に三密環境の活動ですので、無策のまま自粛を続けずに、万全の感染防止対策を講じながら、できるだけ同窓会活動を継続する工夫が重要と考えます。既にご報告したように、神奈川銀杏会、鎌倉淡青会、東京銀杏会、埼玉銀杏会、石川赤門会など、オンライン化との併用など、進化しています。皆様も動きましょう。

5. 神奈川銀杏会総会出席報告

日時：10月24日(土) 15:00～18:00

場所：ナビオス横浜2階 カナール

式次第 総会 15:00～15:45

・講演会 16:00～17:00

・講師 藤嶋 昭 東京理科大学名誉教授 光触媒反応を世界で初めて発見、東大名誉教授、文化勲章、川崎市名誉市民賞

・演題 科学の楽しさ ～コロナウイルスも殺菌できる光触媒を中心に

・茶話会 17:15～18:15 今半人形町弁当

会費 リアル参加5千円 ZOOM参加 1千円*ZOOM視聴問題が発生した為徴収せず。

出席者(長寿)報告

- ・ 新型コロナ感染対策で、参加を少人数にしぼったリアル総会・講演会・茶話会とZOOM参加の併用。リアル参加者は、写真にあるように、豊吉会長など役員含め18名で少なかった。茶話会では隣席の出席者と名刺交換。共通の知人があなど、リアルならではの良さを感じた。ZOOMには11名の会員と高校生が参加された。
- ・ 総会の司会は福山隆幸副会長で豊吉誠治会長の挨拶・報告で行った。ZOOMで参加者がリアルの時より増えた三土会など活動面では順調だが、200名弱の会員に対し会費納入は140名以下ということもあり、会の財政は逼迫している。財政再建も喫緊の課題である。尚、今回は参加者が少人数であることが想定された為、電子投票(メール)と書面投票(ファックス・郵便)を併用した。
- ・ 講演会の司会は植村純一副代表幹事、ホストは奥出信一郎副代表幹事。三土会等でZOOMに習熟されているが、参加者より聞き取りにくいとの意見があり、リアル・ZOOM併用の場合の課題を残した。藤嶋先生の講演はファラデーのクリスマス講演もこうであったかと思わせる内容豊富なものであった。質問はチャットで司会者が受け講師に伝える形でスムーズに行われた。
- ・ 昨年総会時のユウグレナ出雲社長の講演には地元高校生がリアルで参加したが、本年はZOOM参加を浅野高校、栄光学園、翠嵐高校、湘南高校など呼びかけた。高校生も忙しい時期であり、参加者は少なかった。講演後、講師の了解を得て、動画・発表資料を各高校へ限定公開で配信することになった。このように、神奈川銀杏会が多くの課題を抱えながら、大学の知と地元高校と繋ぐパイプ役となる事業を推進していることは高く評価したい。



総会



講演会

5. ご注意：東大公孫会(いちよう会)について

- ・ 東京銀杏会会員から、twitterにて下記の案内にある「東大公孫会(いちよう会)」につき、連絡先も会のメールだけで代表者名は記載無し、本当に東大の同窓会か否かの問合せありました。調査いたしました。結果としては、東京大学校友会には登録されていず、会の名称は上にあるように、「樹」を外しながら「いちよう会」と入れて、ミスリードの意図が見え、応募・入会のための個人情報提供の前には十分にご注意頂く必要のある要注意の活動と推測されることをご報告します。調査は限定的です。サークル活動の可能性あり、心当たりある方はご連絡下さい。

東大公孫会(いちよう会)では新規メンバーを募集しています！公孫会の学生は、上場企業のCEOなど、普通では会うことのできないOBから進路などについてアドバイスをもらうことができます。以下のフォームから9月8日まで応募を受け付けているので、ぜひご応募ください！<https://forms.gle/8fmdNbdTYHur6X>

◎ 校友会関連

校友会との大同団結の第一歩が実現：

2020年10月1日付にて、① 連合会名称を「東京大学地域同窓会連合会」に変更、② 校友会が新設する「地域同窓会本部」を連合会事務局が兼務(本部長を連合会事務局長が兼務)。

(1) 地域同窓会本部の目的は、「国内の地域単位の同窓会活動を支援する」ことで、具体的内容は、校友会・大学関係部門と協議するが、事務局としては、下記を重点に地域同窓会発展を図りたいと考えております。

① 広報手段の強化：TFT、校友会ニュース、更には地域連合会ニュースの学内配布拡大等の広報強化。

② 年次による同窓会推進：東大には組織的な年次同窓会は未だ無い。地域同窓会本部として、学部・院同窓会、運動部・サークル団体、五月祭・駒場祭委員会と協議して、その学年の年次ネットワークの育成・発展を図る。出来れば、直近の2021年卒の核となる幹事の幹事群指名まで進める。

② 在京県人会拡大構想：コロナという異常事態では地方出身学生のストレスは大きい。鳥取、徳島、山口の各県出身学生・教職員は新入生歓迎会、就活支援などの活動を行う。この仕組みを他の県にも拡大、地域の絆による地方出身学生(特に女子学生)のセイフティネットとして、大学の重要なインフラとする。

③ 地域支部構想：

日本国内・海外における東大同窓会の発展は、大学自体の発展に繋がる。日本全国で自主的に立ち上がり、東

大の旗を掲げ、地域における東大卒業生の交流・親睦、そして支援に努めて来た地域同窓会は、東京大学の地域連携拠点の役割をも果たす可能性を持つ。大学とのより緊密な連携を推進したい。

注：大同団結は、両者がWIN WINになるのではなく、より高い目的のため、お互いが一歩譲ること、日本風に言えば「三方一両損」を意味しているかもしれません。前途多難ですが大きな強い同窓会に向かって努力しましょう。